

授業概要

近現代の代表的な短編の作品を読んでいく。作品の表現を吟味しつつ、そこにどのような主題が潜んでいるのか、そこに作家の個性がどのように反映されているのかということをつかえるとともに、読解によって得たものを的確な日本語で表現できるように指導する。それによって、個別の作品を理解するとともに、それを生み出した作家の個性を知り、さらに彼ないし彼女が近代日本の時代社会をどのように生き、捉えたのかを理解することを目指す。秋期におこなわれる講読Ⅱでは主に昭和期の作品と宮沢賢治の童話作品を読み解いていきたい。

授業計画

第 1 回	ガイダンスーモダンからポストモダンへの展開
第 2 回	太宰治『トカトントン』を読む1
第 3 回	太宰治『トカトントン』を読む2
第 4 回	宮沢賢治『銀河鉄道の夜』を読む3
第 5 回	宮沢賢治『銀河鉄道の夜』を読む1
第 6 回	宮沢賢治『銀河鉄道の夜』を読む2
第 7 回	村上春樹『踊る小人』を読む1
第 8 回	村上春樹『踊る小人』を読む2
第 9 回	村上春樹『踊る小人』を読む3
第 10 回	吉本ばなな『キッチン』を読む1
第 11 回	吉本ばなな『キッチン』を読む2
第 12 回	吉本ばなな『キッチン』を読む3
第 13 回	多和田葉子『ペルソナ』を読む1
第 14 回	多和田葉子『ペルソナ』を読む2
第 15 回	多和田葉子『ペルソナ』を読む3
第 16 回	まとめー近現代文学の主題と表現

到達目標

- ・ 代表的な作家による作品の特質をつかえることができる。
- ・ 作品に時代社会の姿がどのように織り込まれているのかを語るすることができる。
- ・ 作品の主題と表現の間にどのような関係があるかを説明できる。

履修上の注意

この作品は講義と演習の中間的な形態で行われる。教員から作家・作品について導入的な紹介、解説を行いつつ、受講生も主体的に作品を読み、意見を発表することが求められる。近代文学の専攻者である必要はないが、ある程度近現代文学を読むことに興味を持っていることが望まれる。

予習・復習

- 予習：授業で扱われる作品を必ず事前に読んでおくこと。
 復習：授業の内容を踏まえてテキストを読み直し、小レポートを作成する。

評価方法

期末レポート（30%）、各作品についての小レポート（60%）、授業参加態度（10%）によって評価する。

テキスト

各作品のテキストは、教員がそれぞれコピーを準備し、配布する。

- ・ 教科書名：
- ・ 著者名：
- ・ 出版社名：
- ・ 出版年（ISBN）：